

文部科学省の高大接続システム改革会議は22日、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の記述式問題例を公表した。いずれも長文や図の付いた設問で、論理的に解答することを求めている。大手進学塾、Z会進学教室の橋野篤指導室長に分析してもらい、同省が示した出題ポイントをまとめた。（社会面参照）



橋野篤  
Z会進学教室  
指導室長

思考力や判断力、表現力を問いたいという出題者の思いが伝わってくる問題イメージだ。教わった知識を使って処理すれば済む問題ではなく、自分が学んできたことの何を用いて解決すべきかを考えさせる問題になっている。

ただ、ただき台と云うこともあって、十分に練れた問題とは言えない。例えば、国語の例1の警察庁の事故統計を使った問題だが、公立中高一貫校の適性検査レベルの問題というのが第一印象だ。高校までの学びを生かして論理的に考えさせるというより、一般常識で答えられる問題で、学習との結びつきが見えてこない。この手の問題は大学入試には使にくいのではないか。一刻も早く大学入試レベルの例題を公開してほしい。

例2は3つの文章を読んでも考えさせる問題だ。全く自由に記述させるのではなく、一定の条件を定めた上で作文させ、複数の解答が成立しうる問題になっており、工夫の跡が見られる。

元の文章が不されていないので不明な部分もあるが、解答例を見る限り、高度の読解力や発想力を問う

## 大学入試新テスト、記述式の問題例

# 考える力問う採点難しく

レベルとは思えない。30字や50字では書けることも限られる。やはり大学入学希望者の学力を測るには、300字くらいは必要ではないか。

受験国語とは、出題された文章の本身について書くもので、自分の意見を書くものではない。これに対し、

例題は「あなたはどうか考えるか」を問いている。国語というより小論文に近く、この違いは大きい。

数学では三角比の例題が示された。スーパームーンの問題と三角比を関連づけた問題だが、こうした問題が微分・積分や指数、対数などでも作れるのか？ 問題のバリエーションにも限りがありそうで、何年か続くと似たような問題が相次

### 各教科のポイント

#### ▽国語

国語は3例が示された。文科省は例2、例3は著作権などを理由に問題文の一部を非公開としたが、いずれも「国語総合」に対応し、文章から必要な情報を見つけ、論理的に思考する力などを測る。

例1は交通事故の3つの統計グラフに関する4人の高校生の議論の内容を踏まえ、適切な答えを表現できるかをみる。統計の傾向が変わった時期を把握し、議論の道筋を踏まえなければ、解答を導けない。

例2は3人の筆者が書いた異なる文章を読み、共通点を考察させる。文章から筆者の創作姿勢の「状況」と「問題」をそれぞれ6つある選択肢から選び、「解決策」を記述する。大きな特徴は「状況」と「問題」の正解の組み合わせが複数あること。この問題では少なくとも2通りの解答例が正解とされた。

例3は新聞記事を読み、考え方をまとめる問題。①200字以内②300字以内③2段落構成とし、本文中で重要なことと思った言葉を第1段落に引用する——といった複数の条件を設けた。

#### ▽数学

数学は「数学I」の「図形と計量」の領域の問題が示された。月の観察や屋上から校庭を見るといった作業内容を文章から理解し、「三角比」の特徴を踏まえて、求めたい距離を計算式で示すことなどを求めている。

（2）と（3）は（1）を踏まえた応用問題。問題文には屋上にいる人物と校庭、間にあるフィルムに写し取られた四角形の図が示されており、この情報をもとに立体的な空間図形をイメージする。校庭に書かれた台形が遠近法により、フィルムには正方形として写し取られるという状況を数学的な表現で説明できるかがポイントになる。

#### ▽英語

参考例の英語は「書く」「話す」の力を測る。2問。「話す」の力を測る。2問。文科省が昨年度、高校3年生の一部に行なった英語力調査の問題が示された。「書く」はインターネットを利用して友達を増やすことへの意見と理由を英文で記述させる。考えを明確にし、論理的に表現できるかがポイント。「話す」は日本人生徒が海外旅行に行くべきかどうかについて、賛成か反対の立場を示し、理由も述べさせる。